

令和3年度 教育活動等に対する学校評価書(自己評価結果書)

学校法人二葉学園 葛飾二葉幼稚園

1. 本園の教育目標

「自立と思いやりの心」

●自ら考え、自ら課題にぶつかり、自ら解決できる子

遊びや保育を通して、知的好奇心や探究心、興味、関心、意欲を引き出し、一人一人の段階に合わせて生きる力に結びつける。

●自らを律しつつ、他者を思いやれる子

友だちが好き、先生が好き、幼稚園が好きという思いを通して、暖かい風土や雰囲気の中で他者を好きになることで、自分を律しつつ、一人でも遊べ、みんなとでも遊べることを身につけ、さまざまな場面でも他者を思いやり、自分の意思を選択できる力に結びつける。

●健康で、がまん強いたくましい子

物の豊かさが心や身体に及ぼす影響を踏まえ、幼児期に必要な運動による身体能力の向上、心の発達、神経機能の発達を目指し、心身ともに健康な子どもに育てる

2. 本年度の重点目標

昨年度に引き続き、保育園志向の保護者の増加や、コロナ禍による育児不安の増加等、情勢に見合う乳幼児教育・保育の在り方を更に見直すとともに、引き続き、職員の育成に重点を置きキャリアアップを目指す。

3. 教職員による、評価項目に対する自己評価実施（年3回）

葛飾区による指導検査の実施

評価項目	教職員自己評価	自己評価結果
① 保育の計画性	<ul style="list-style-type: none">用途別に活用していた二種類保育システムを一本化した。システム内にある新たな機能の使用も開始し、保護者へ向けて保育活動やそのねらいを分かりやすく伝えたり、保育教諭が日々の保育を振り返ったりするなど有効活用した。また、コロナ禍において来園する機会が少なくなった保護者に向け、日々の園生活での子どもの姿を保育システムを用いて多数配信した。ゲストティーチャー（自然あそびコーディネーター）を迎え、年間を通じて園庭での自然あそびを、より充実させることができた。	B
② 保育の在り方、乳・幼児への対応	<ul style="list-style-type: none">主体性を意識し、自己肯定感を高められるよう保育計画をたてた。特に、年間を通して保育に取り入れた自然あそびでは、子どもたち自身が「遊びたい」という意識をより高めることができた。外国人スタッフを増員し、日々の保育に終日入ることで、自国以外にも興味関心がもてるようにした。夏には東京オリンピックの開催もあり、より国際化を意識することができた。感染症拡大防止のため、空気清浄機を導入したり、教具や玩具などの消毒回数を増やしたりなど対策をしていたが、幼児クラスマスク着用の徹底が遅くなり感染症に繋がってしまった。速やかにマスク着用の徹底をするとともに、園児だけでなく職員においても、一人一人の体調管理をよりしっかりと行うようにした。	B

③ 教師としての 資質、能力・ 良識・適正	<ul style="list-style-type: none"> ・例年、保護者に向けて配信している『ふたば通信』では、外部研修で得た知識と、自分の保育を振り返ったレポートを保護者に配信した。これを継続していることが評価され、組織として『文部科学大臣賞』を受賞した。 ・年間を通して『自然あそび』研修をしたことで、それが特別な保育ではなく通常の保育の中で取り入れられることを再確認したり、身近にあるが知らなかった草木の名前を知る機会になったりなど、保育に有効な知識を深めることができた。 	A
④ 保護者への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の方がいつでも園の情報を確認できるよう、日々の保育の様子だけでなく、園だよりや月の予定カレンダーなども随時配信し、ペーパーレス化をすすめた。乳児クラスにおいては、連絡ノートをアプリに切り替え、利便性を高めた。 ・コロナ禍において、緊急事態宣言やまん延防止期間が繰り返されたことで、行事の中止や延期を余儀なくされたため、その代替を様々な形で行った。通常保育の中では、地域の自然と触れ合える機会や園バスを利用して出かける機会を多く持った。修了式、卒園式を終えた後にも、『おたのしみウィーク』として保育を行った。 	B
⑤ 地域の自然や 社会とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・園所有の『ふたばたけ』や『はらっぱ』に出かけること、園外保育が増えたことで、地域の方々と出会う機会が増えた。職員が率先して挨拶をし、子どもたちもそれを真似て近隣の方々への挨拶が上手になってきた。 ・幼保少連携では、学区内の小学校と行き来はできなかったが、園生活や学校生活を具体的に知ることができる手作り資料を交換するなどの間接交流を深めた。卒園生が元気で頑張っている姿も垣間見られ、とても良い連携となった。 ・中学校からの職場体験受け入れでは、初めてオンラインでの試みとなった。体験生徒の中には卒園生もいて、より身近な職場体験学習となった。 	A
⑥ 子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・りんごひろばでは、育児が孤立しないよう、地域の子育て中の方に向け、おたのしみタイムとおしゃべりタイムを設け、保育教諭が中心になって、親子でふれあい遊びをしたり、絵本の読み聞かせを行ったりした。同年齢のお子さんをもつ保護者の方同士が、子育ての喜びや不安、悩みなどを共有できる場の提供ができた。 ・看護師による健康相談会、体育講師による運動遊び、臨床発達心理士による発達相談も継続して行い、安心・安全に育児ができるよう努めた。 	A
⑦ 研修	<ul style="list-style-type: none"> ・園内で行っている5分間研修は継続して実施。また、前年度から始めた同僚性を高める研修では、部署が異なる職員間で同じ組織の職員としての意識を深め、互いの部署を知る機会にもなった。 ・外部研修では、コロナ禍であったためオンラインでの開催が多かったが、「ふたば通信」を兼ねていることもあり、積極的に研修に参加することができた。また、それぞれの職員が、キャリアアップのための研修を積極的に習得した。 	A

※自己評価結果の表示方法

A…十分達成された

B…達成された

C…取り組んだが達成が十分ではない

D…取り組みが不十分であった

4. 今年度の総合的な園評価と次年度への課題

指導検査による指導はなかった。コロナ禍で計画の変更があったが、前年度の考察によりその都度対応することができたが、その時により状況が違って来る事が想定されるため、引き続き、BPC や PDCA を見直し安定した教育保育環境を提供できるようにする。

5. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。